

# 第57回 札幌大会

2002/10/17

## 札幌平岸高等学校

地下鉄南北線澄川駅から徒歩7分という恵まれた立地環境にあり、グラウンドには夜間照明があるなど施設・設備も整っています。全日制にデザインアートコースが新設されるなど、魅力あふれる学校です。



### ■ 研究主題

「新教育課程移行に向けた理論的・実践的研究」  
～変化に柔軟に対応し、広い視野に立つ数学教育を目指して～

### ■ 講習会

演題 「ゼータから見た高校数学と現代数学」  
講師 黒川重信氏（東京工業大学教授）

### ■ 研究授業

学年	授業者	生徒	单元名
1年	渡辺 暁生	札幌藻岩高等学校	【数Ⅰ】確率
2年	平澤 淳一	札幌南陵高等学校	【数Ⅱ】微分法
2年	樋口 琢也	札幌平岸高等学校	【数Ⅱ】微分法
3年	古川 政春	札幌平岸高等学校	【数Ⅲ】行列

## 「急遽、事務局長となって」

札幌藻岩高校 桐木 宏（平岸大会高校部会事務局長）

平岸大会は、通常の事務局交代が2年毎のところを1年で代わった大会でした。事務局引き継ぎを中心になって進めていた教員の人事異動のためでした。前事務局校の南陵高校さんには大変な迷惑をおかけして、1年の猶予をいただいたわけですが、やはり右も左もわからずにあっという間に終わったという印象です。各事務局の一つ一つの仕事は同じなのでしょうが、事務局を受け入れる校内態勢ができていなかったのも、スムーズにスタートできませんでした。郵送をメール便にしたり、高校部会独自の総会資料冊子を、新たに作成したり、FAXを多用したりなど、引き継ぎには無かったことも行いました。前・後期制の影響で大会の日程が動いたり、次の研究主題を決定したりと大きな事もありました。

なんといっても一番苦労したのは、生徒の移動を伴う研究授業についてでした。なかなか協力高校が見つからなかったこともあります。また、「バス代は無い」という初めて耳にした言葉（経費の面）、また「不測の事態が起きた場合は？」の問い（研究会での生徒の安全保障の面）など、諸々の事柄で内外の協力を得るのが難しかったのです。「保険を掛けることにする」のが精一杯の対応でした。部会長の上山校長先生においては、各高校へ向いていただくなど、大変お世話になりました。この大会は、各方面を支えていただいた皆様方のおかげで無事終了することができました。ほんとうにありがとうございました。

## 「特設授業を経験して」

標津高校 平澤 淳一（研究授業者）

平成14年10月に札幌平岸高校で行われた札幌大会にて、札幌南陵高校2年生33人を引率して特設授業を行いました。当時の私は教員3年目で、このような経験はもちろん初めてのことでした。生徒達もバスで他校に移動して授業を受けるという形だったため、戸惑いを感じていたようでしたが、いつもと変わらない様子で積極的に取り組んでくれました。

特に、この平岸高校へ生徒を引率していくということについては、一つ課題がありました。当時私が担当していたのは2年生でしたが、特設授業を行う予定である理型クラスの数学は習熟度別授業を行っていました。そのため私が担当クラスを引率している間、学校に残った方の生徒は数学以外の授業を行うことができないということになってしまいました。この件については、担当教諭・教務部と相談して2年理型クラスを3時間連続数学という時間割にすることで解決しました。残留生徒にとってはちょっと過酷な授業だったかもしれませんが。

授業終了後は、引率生徒が4時間目の授業に間に合うようすぐに平岸高校を後にしました。慌ただしい移動でしたが、後ほど参観していた先生から感想をいただくなど、今後の授業に向けて有意義な経験をすることができたと思っています。

# ■ 領域別分科会

.....			
		4	4
			%

